

(松本歯大・生物), 口科誌, **41**(5): 974—975, 1992.
日本口腔科学会総会(第46回)平成4年4月.

電子顕微鏡による研究業績集

口腔生理学講座

平成4年度(1992)

生物学研究室

学会発表

地球温暖化による健康障害(熱ストレスの健康影響): 川原一祐(松本歯大・生物), 安藤 満, 山元昭二(国立環境研), 浅沼信治, 臼田 誠, 松島松翠(日農医研), 日農医誌, **41**(3): 666—667, 1992, 日本農村医学会総会(第41回)平成4年10月.

環境の温暖化に伴い, 熱波により高齢者, 成人病既往者の死亡率上昇が認められる(U. S. EPA 調査他), 30℃を越える日数が18日間, このうち36℃を越える日数が16日間連続した場合に顕著である. 動物実験によれば深部体温上昇の初期にラジカル障害が指摘でき, 暑熱負荷が続く間, 脂質過酸化障害が継続した. 電顕的には肝細胞, 神経系に障害を認め, 膜構の変性や代謝機能の低下を示す諸変化を認めた.

化学肥料, 特に窒素肥料による生体への影響(第3報): 川原一祐(松本歯大・生物), 臼田 誠, 浅沼信治, 佐々木喜一郎, 松島松翠(日農医研), 日農医誌, **41**(3): 668—669, 1992, 日本農村医学会総会(第41回)平成4年10月.

化学肥料の使用と地下水系の窒素濃度推移は各地調査の結果, 相当に高い相関性が指摘出来る. 欧米に於て, 乳児のメトヘモグロビン血症の発生と地下水系窒素濃度との関係が注目されている. 体内の硝酸イオンが亜硝酸イオンに変わりやすく, 発ガン物質の前駆体との関わりも関心を集めている.

動物実験では胃, 肝, 腎および心, それに各血管系などに変化を認めた. 萎縮性胃炎と内因子欠乏, 血色素生成動態を追求する目安を得た.

ハイドロキシアパタイト・コーテッド・インプラントに関する実験的研究—神経再生に伴うCholinesterase活性の推移について—: 植田章夫, 千野武廣(松本歯大・口腔外科I), 川原一祐

論文発表

Guanylate cyclase activity in rabbit taste bud cells (cytochemical study): Asanuma, N. and Nomura, H. (Dept. of Oral Physiol., Matsumoto Dent. Coll.), 第26回味と匂のシンポジウム論文集: 33—36, 1992.

ウサギ葉状乳頭味蕾におけるグアニル酸シクラーゼ活性を細胞化学的に検出した. 活性は微絨毛を含む味蕾細胞先端部に限局して認められ, 味覚受容への環状GMPの関与が示唆された.

学会発表

ラット嗅細胞のアデニル酸シクラーゼおよび環状ヌクレオチド・ホスホジエステラーゼ活性の組織化学: 浅沼直和, 野村浩道(松本歯大・口腔生理), 日本生理誌, **55**(1): 33, 1993, 日本生理学会中部談話会(第39回)平成4年10月.

ウサギ味蕾細胞のグアニル酸シクラーゼ活性(組織化学的研究): 浅沼直和, 野村浩道(松本歯大・口腔生理), 味と匂のシンポジウム(第26回)平成4年12月.

口腔解剖学講座第II

論文発表

Salinity tolerance and structure of external and internal gills in tadpoles of the crab-eating frog, *Rana cancrivora*: Uchiyama, M. (Dept. of Oral Physiol., Nippon Dent. Univ.) and Yoshizawa, H. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.), Cell & Tissue Research, **267**: 35—44, 1992.

Fine structure of the dorsa lingual epithelium of the Japanese monkey *Macaca fuscata fuscata*: Iwasaki, S. (Dept. of Oral Anat., Nippon Dent. Univ.), Yoshizawa, H. and Suzuki, K. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.), Acta Anatomica, **144**: 267—277, 1992.

Odontoclastic resorption at the pulpal surface of coronal dentin prior to the shedding of human deciduous teeth: Sahara, N. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.), Okafuji, N., Toyoki, A. (Dept. of Orthod., Matsumoto Dent. Coll.), Suzuki, I. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.), Deguchi, T. (Dept. of Orthod., Matsumoto Dent. Coll.) and Suzuki, K. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.). Arch. Histol. Cytol. **55** (3): 273—285, 1992.

露出セメント質の形態学的研究, 第一報 (歯周疾患患者の露出セメント質表層における過石灰化帯と臨床所見について): 岩本雅章, 野中慎之, 荒川義浩, 太田紀雄 (松本歯大・歯科保存 I), 赤羽章司 (松本歯大・電顕室), 鈴木和夫 (松本歯大・口腔解剖 II). 日歯周誌, **34**(4): 871—882, 1992.

学会発表

ヒト乳歯の脱落機序について: 佐原紀行, 鈴木和夫 (松本歯大・口腔解剖 II), 解剖誌, **67**(4): 562, 1992, 日本解剖学会総会 (第97回) 平成 4 年 4 月.

未成熟ラット顎下腺から精製された分泌蛋白, SMG-A のマウス顎下腺における免疫細胞化学: 松浦幸子, 鈴木和夫 (松本歯大・口腔解剖 II). 解剖誌, **67**(4): 523, 1992, 日本解剖学会総会 (第97回) 平成 4 年 4 月.

顎骨からのハバース管の形態学的研究: 山本勝一, 宇都宮丈児, 佐藤千尋, 山本 茂, 大谷 進 (神奈川歯大・法医), 吉澤英樹 (松本歯大・口腔解剖 II), 見明 清, 上松博子 (東京歯大・組織). 日法医誌, **46** (補冊): 189, 1992, 日本法医学会総会 (第76回) 平成 4 年 4 月.

Histopathological observation of the interface of the hydroxyapatite coated shapememory alloy (Ti—Ni) implant: Hasegawa, H., Isobe, H., Yoshizawa, H. and Suzuki, K. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.). 第4回国際インプラントシンポジウム, 平成 4 年 5 月.

The histopathological studies of the porous

hydroxyapatite coated on the titanium implant: Isobe, H., Hasegawa, H., Yoshizawa, H. and Suzuki, K. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.). 第4回国際インプラントシンポジウム, 平成 4 年 5 月.

The changes of the internal structures of mandibular bone by tooth loss: Suzuki, K. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.). 第4回国際インプラントシンポジウム, 平成 4 年 5 月.

ハイドロキシアパタイト填入により挙上した上顎洞の病理組織学的研究: 阪本義樹, 阪本貴司, 佐藤文夫 (大阪口腔インプラント研究会), 吉澤英樹, 鈴木和夫 (松本歯大・口腔解剖 II). 日本口腔インプラント学会総会 (第22回) 平成 4 年 7 月.

Physiological stimulation of duct cell differentiation in adult rat parotid gland: S. Matsuura and A. R. Hand (Univ. of Connecticut, USA). J. Dent. Res. **71**: 548, 1992. 70th International Association for Dental Research, July, 1992.

Cytodifferentiation of odontoclasts during tooth resorption: Sahara, N. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.), Okafuji, N., Deguchi, T. (Dept. of Orthod., Matsumoto Dent. Coll.) and Suzuki, K. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.). 5th International Congress on Cell Biology, July, 1992.

実験的歯の移動時における歯根吸収の組織化学的観察: 豊城あずさ, 岡藤範正, 芦澤雄二 (松本歯大・歯科矯正), 佐原紀行, 鈴木和夫 (松本歯大・口腔解剖 II), 出口敏雄 (松本歯大・歯科矯正). 日本矯正歯科学会大会 (第51回) 平成 4 年 10 月.

イソプロテレノール慢性刺激によるマウス顎下腺の肥大過程における DNA 合成細胞の分布: 松浦幸子, 鈴木和夫 (松本歯大・口腔解剖 II). 歯基礎誌, **34** (補冊): 115, 1992, 歯科基礎医学会総会 (第34回) 平成 4 年 10 月.

機械的ストレスに伴う歯槽骨改造現象過程について

て：芦澤雄二，岡藤範正，豊城あずさ，出口敏雄（松本歯大・歯科矯正），佐原紀行，鈴木和夫（松本歯大・口腔解剖II）。歯基礎誌，34（補冊）：185，1992。歯科基礎医学会総会（第34回）平成4年10月。

各種形態の骨内インプラントの組織学的比較：磯部晴彦，長谷川敬保，吉澤英樹，鈴木和夫（松本歯大・口腔解剖II）。日本口腔インプラント学会第13回中部支部総会・学術大会，平成4年11月。

Blade型インプラントにおける骨組織の経時的変化：長谷川敬保，磯部晴彦，吉澤英樹，鈴木和夫（松本歯大・口腔解剖II）。日本口腔インプラント学会第13回中部支部総会・学術大会，平成4年11月。

X線マイクロアナライザーによる歯科用金属の識別：宇都宮丈児，杉本治雄，大谷 進，山本勝一（神歯大・法医），吉澤英樹（松本歯大・口腔解剖II）。神奈川歯科大学学会総会（第27回）平成4年12月。

コンビーフの缶詰中に混入していた歯牙片の鑑定例：蓑島忠夫，菅野 均，大谷 進，山本勝一（神歯大・法医），吉澤英樹（松本歯大・口腔解剖II）。神奈川歯科大学学会総会（第27回）平成4年12月。

Enzyme histochemical study of bone remodeling process following experimental tooth movement：Sahara, N. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.), Toyoki, A., Ashizawa, Y., Deguchi, T. (Dept. of Orthod., Matsumoto Dent. Coll.) and Suzuki, K. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.). Japanese association for dental research (40th annual meeting) December, 1992.

露出セメント質の形態学的研究，第一報（露出セメント質表層における過石灰化と臨床所見について）：岩本雅章，野中慎之，太田紀雄（松本歯大・歯科保存I），赤羽章司（松本歯大・電顕室），鈴木和夫（松本歯大・口腔解剖II）。日歯周誌，34（抄）春季特別号：76，1992。春季日本歯周病学会総会

（第35回）平成4年5月。

口腔病理学講座

論文発表

歯牙フッ素症1症例の病理学的検索：枝 重夫，安東基善，長谷川博雅，川上敏行（松本歯大・口腔病理），近藤 武，笠原 香，中根 卓，樋口壽英（松本歯大・口腔衛生），赤羽章司（松本歯大・電顕室）。松本歯学，18(2)：109—116，1992。

長野県下伊那郡喬木村伊久間地区に住み，0歳時から5歳時までの約6年間にわたって2.6 ppm 前後のフッ素を含む飲料水を摂取することによって生じた10歳男児の上顎右側中切歯に現われた斑状歯1歯を検索した。その結果，MRG ではその小柱間隙がX線透過性の線として現われたため全体としてはX線透過性となって観察された。SEM では，エナメル質の最表層は緻密であったが，その下層ではエナメル小柱の間に空隙が生じていた。

口蓋に発生した明細胞腺種の1症例：山岸眞弓美，北村 豊，岩本 修，千野貴廣，高橋 治，千野武廣（松本歯大・口腔外科I），安東基善（松本歯大・口腔病理）。日口外誌，38(11)：1687—1688，1992。

学会発表

斑状歯1症例のMicroradiographyとElectron Microscopy：川上敏行，安東基善，長谷川博雅，枝 重夫（松本歯大・口腔病理），近藤 武，笠原香，中根 卓，樋口壽英（松本歯大・口腔衛生），赤羽章司（松本歯大・電顕室）。硬組織研究技術学会雑誌，1(1)：13—14，1992。硬組織研究技術学会（第1回）平成4年3月。

長野県下伊那郡喬木村伊久間地区に住み，0歳時から5歳時までの約6年間にわたって2.6 ppm 前後のフッ素を含む飲料水を摂取することによって生じた10歳男児の上顎右側中切歯に現われた斑状歯1歯を検索した。その結果，MRG ではその小柱間隙がX線透過性の線として現われたため全体としてはX線透過性となって観察された。SEM では，エナメル質の最表層は緻密であったが，その下層ではエナメル小柱の間に空隙が生じていた。

歯牙弗素症の1症例の電子顕微鏡観察：枝 重夫（松本歯大・口腔病理），赤羽章司（松本歯大・電顕室），安東基善，長谷川博雅，川上敏行（松本歯大・口腔病理），歯基礎誌，34（抄）：206，1992，歯科基礎医学会総会（第34回）1992年10月，

長野県下伊那郡喬木村伊久間地区に住み，0歳時から5歳時までの約6年間にわたって2.6 ppm 前後のフッ素を含む飲料水を摂取することによって生じた10歳男児の上顎右側中切歯に現われた斑状歯1歯を主として電子顕微鏡的に検索した。その結果，MRGではその小柱間隙がX線透過性の線として現われたため全体としてはX線透過性となり，またその部ではエナメル小柱が際立って観察できた。SEMでは，エナメル質の最表層ではきわめて緻密であったが，その下層ではエナメル小柱の間に空隙が生じていた。象牙質部では球間象牙質が広く分布しており，同部では管周基質は形成されていなかった。

術後性上顎嚢胞の嚢壁にみられた石灰化物の観察：武井則之，川上敏行，宇治英世，安東基善，長谷川博雅，枝 重夫（松本歯大・口腔病理），松本歯学，18(3)：332—333，1992，松本歯学会例会（第35回）平成4年11月，

59歳男性に発生した術後性上顎嚢胞の嚢壁には，ヘマトキシリンに淡染した構造物が介在していた。これらは大小様々であった。すなわち大きいものは球状のもので，小さいものは砂状を呈していた。これらの構造物はVon Kossa染色ではともに強く陽性反応を示し，とくに大きな球状の石灰化物は同心円層状を呈した。これと関連して一部のものでは膜様の構造物が確認された。これらの構造物は，SEMの二次電子像では比較的平滑に，組成像では明るく観察された。なお，一部の大きな球状構造物には核状の構造物を確認することができた。EDSでは，CaとPが主たる構成成分であることを示した。

口腔衛生学講座

論文発表

歯牙フッ素症1症例の病理学的検索：枝 重夫，安東基善，長谷川博雅，川上敏行（松本歯大・口腔病理），近藤 武，笠原 香，中根 卓，樋口壽英（松本歯大・口腔衛生），赤羽章司（松本歯大・電顕室），松本歯学，18(2)：109—116，1992，

学会発表

斑状歯1症例のMicroradiographyとElectron Microscopy：川上敏行，安東基善，長谷川博雅，枝 重夫（松本歯大・口腔病理），近藤 武，笠原香，中根 卓，樋口壽英（松本歯大・口腔衛生），赤羽章司（松本歯大・電顕室），硬組織研究技術学会雑誌，1(1)：13—14，1992，硬組織研究技術学会（第1回）平成4年3月，

口腔外科学講座第I

論文発表

口蓋に発生した明細胞腺腫の1症例：山岸眞弓美，北村 豊，岩本 修，千野貴廣，高橋 治，千野武廣（松本歯大・口腔外科I），安東基善（松本歯大・口腔病理），日口外誌，38(11)：1687—1688，1992，

78歳，女性の口蓋に発生した明細胞腺腫の1症例を経験したので，電子顕微鏡の観察を加えて報告した。電顕的には，腫瘍細胞の胞体内は均質無構造な物質で満たされており，ところどころに粗面小胞体わずかに認められたが，他の細胞小器官は乏しく，グリコーゲン顆粒は認められなかった。

学会発表

ラット骨細胞におけるカタプシンDの局在についての免疫組織化学的研究：綾坂則夫，千野武廣（松本歯大・口腔外科I），清島 保（九州大・口腔外科I），田中輝男（九州大・口腔解剖I），口科誌，41(5)：929—930，1992，日本口腔科学会総会（第46回）平成4年4月，

ラット骨細胞におけるカタプシンDの局在を免疫組織化学的に検索した結果，カタプシンDは骨細胞の一次および二次ライソゾームに局在していたが，他の細胞内小器官には認められなかった。また骨小腔のpericellular spaceや骨面には観察されなかった。骨細胞に比較的多くのカタプシンDが存在していたことから，カタプシンDが細胞内での消化過程に関与するほかに，骨細胞性骨溶解にも関与している可能性が示唆された。

ハイドロキシアパタイト・コーテッド・インプラントに関する実験的研究—神経再生に伴うCholinesterase活性の推移について—：植田章

夫, 千野武廣(松本歯大・口腔外科 I), 川原一祐(松本歯大・生物), 口科誌, 41(5): 974-975, 1992. 日本口腔科学会総会(第46回)平成4年4月.

ハイドロキシapatite・コーテッド・インプラント埋入に伴う顎骨内末梢神経組織の切断後の神経再生の様相を, 神経伝達物質である Cholinesterase 活性の推移をもって検索した結果, 術後6週までは著明な Cholinesterase 活性は見られず, 8週以降において再生神経繊維に膜性 Cholinesterase 活性の上昇が認められた。また対照群との比較において Cholinesterase 活性の推移に著明な差異が見られなかったことから, 本インプラントは神経再生過程に障害となる要素を持たないことが示唆された。

ラット顎関節滑膜に分布する三叉神経節由来の知覚神経終末の微細形態: 城戸瑞穂(九州大・補綴 I), 近藤照義(九州大・口腔解剖 I), 綾坂則夫(松本歯大・口腔外科 I), 清島 保(九州大・口腔外科 I), 諸井亮司, 寺田善博(九州大・補綴 I), 田中輝男(九州大・口腔解剖 I), 歯基礎誌, 31: 171, 1992. 歯科基礎医学会総会(第34回)平成4年10月.

ラット顎関節滑膜表層細胞におけるカテプシン B, D の分布と局在について免疫細胞化学的研究: 清島 保(九州大・口腔外科 I), 筑波隆幸(九州大・薬理), 城戸瑞穂(九州大・補綴 I), 綾坂則夫(松本歯大・口腔外科 I), 山本健二(九州大・薬理), 田中輝男(九州大・口腔解剖 I), 歯基礎誌, 31: 156, 1992. 歯科基礎医学会総会(第34回)平成4年10月.

顎下腺唾石の微細構造と機器分析所見について: 岩本 修, 山岸眞弓美, 福屋武則, 北村 豊, 千野武廣(松本歯大・口腔外科 I), 赤羽章司(松本歯大・電顕室), 抄録集: 34, 1992. 日本口腔科学会中部地方会(第35回)平成4年10月.

2症例の顎下腺唾石についてX線マイクロアナライザー, 赤外線吸収スペクトルによる分析ならびに走査型電子顕微鏡による観察を行った。その結果, 2例とも Ca, P, Mg, S が検出され, 特に S の分布領域は, 限局的で, 特徴のある像を呈した。また同部の TEM 像では, 特に多数の桿菌様構造物および同構造物が逸脱したと思われる所見が得られた。

顎下腺唾石の微細構造と機器分析所見について: 岩本 修, 山岸眞弓美, 福屋武則, 北村 豊, 千野武廣(松本歯大・口腔外科 I), 赤羽章司(松本歯大・電顕室), 松本歯学, 18(3): 334, 1992. 松本歯学会例会(第35回)平成4年11月.

2症例の顎下腺唾石についてX線マイクロアナライザー, 赤外線吸収スペクトルによる分析ならびに走査型電子顕微鏡による観察を行った。その結果, 2例とも Ca, P, Mg, S が検出され, 特に S の分布領域は, 限局的で, 特徴のある像を呈した。また同部の TEM 像では, 特に多数の桿菌様構造物および同構造物が逸脱したと思われる所見が得られた。

歯科保存学講座第 I

論文発表

露出セメント質の形態学的研究, 第一報(歯周疾患患者の露出セメント質表層における過石灰化帯と臨床所見について): 岩本雅章, 野中慎之, 荒川義浩, 太田紀雄(松本歯大・歯科保存 I), 赤羽章司(松本歯大・電顕室), 鈴木和夫(松本歯大・口腔解剖 II), 日歯周誌, 34(4): 871-882, 1992.

本研究は臨床症状別に分類したヒト抜去歯牙を用いて露出セメント質の表面形態を電顕的(SEM, COMPO, EPMA)及び, 光顕的(Von Kossa カルシュウム検出染色法)とマイクロラジオグラフィーを用いて形態観察と臨床所見を比較検討したものである。その結果, ①SEM による表面観察結果では, 高度病変において露出セメント表面の隆起状突起物の出現と, その周囲の小窩並びに顆粒の消失が観察された。②マイクロラジオグラフィー及び, Von Kossa カルシュウム検出染色法にて露出セメント質表面のシャーピー線維束間に大, 小, 球状の石灰化物が沈着しているのが観察された。③過石灰化帯の出現は症状の重症度が高くなるにしたがって, 出現率の割合が高くなること, 幅も増すことも認められた。

学会発表

露出セメント質の形態学的研究, 第一報(露出セメント質表層における過石灰化と臨床所見について): 岩本雅章, 野中慎之, 太田紀雄(松本歯大・歯科保存 I), 赤羽章司(松本歯大・電顕室), 鈴木和夫(松本歯大・口腔解剖 II), 日歯周誌, 34(抄)

春季特別号：76，1992。春季日本歯周病学会総会（第35回）平成4年5月。

歯科矯正学講座

論文発表

レーザー照射によるヒト抜去歯の形態および温度変化について：小幡明彦，宮崎顕道，白井竹郎，佐藤陽一，上島真二郎，出口敏雄（松本歯大・歯科矯正），山岸利夫，伊藤充雄（松本歯大・総歯研生体材料），松本歯学，18(1)：30—38，1992。

Odontoclastic resorption at the pulpal surface of coronal dentin prior to the shedding of human deciduous teeth: Sahara, N. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.), Okafuji, N., Toyoki, A. (Dept of Orthod., Matsumoto Dent. Coll.), Suzuki, I. (Dept of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.), Deguchi, T. (Dept of Orthod., Matsumoto Dent. Coll.) and Suzuki, K. (Dept of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.). Arch. Histol. Cytol. 55(3): 273—285, 1992.

矯正用材料へのイオン・プレーティングの応用（その1）—アーチワイヤーへの応用—：白井竹郎，小幡明彦，宮崎顕道，大山尚毅，丹波 健，戸刈 惇毅，出口敏雄（松本歯大・歯科矯正），山岸利夫，伊藤充雄（松本歯大・総歯研生体材料），松本歯学，18(3)：271—276，1992。

学会発表

レーザー照射によるヒト抜去歯の変化—ディフォーカス条件での照射について—：小幡明彦，出口敏雄（松本歯大・歯科矯正），山岸利夫，伊藤充雄（松本歯大・総歯研生体材料），松本歯学会総会（第34回）平成4年6月。

Cytodifferentiation of odontoclasts during tooth resorption: Sahara, N. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.), Okafuji, N., Deguchi, T. (Dept. of Orthod., Matsumoto Dent. Coll.) and Suzuki, K. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.). 5th International Congress on Cell Biology, July, 1992.

機械的ストレスに伴う歯槽骨改造現象過程について：芦澤雄二，岡藤範正，豊城あずさ，出口敏雄（松本歯大・歯科矯正），佐原紀行，鈴木和夫（松本歯大・口腔解剖II），歯科基礎医学会総会（第34回）平成4年10月。

形状記憶型シリコン樹脂に関する研究（その2）—浸漬実験について—：宮崎顕道（松本歯大・歯科矯正），山岸利夫，伊藤充雄（松本歯大・総歯研生体材料），日本歯科理工学会（第20回）1992年9月。

ファイバー導光によるCO₂レーザーのヒト抜去歯への照射について：小幡明彦，出口敏雄（松本歯大・歯科矯正），山岸利夫，伊藤充雄（松本歯大・総歯研生体材料），松本歯学会例会（第35回）平成4年年11月。

Enzyme histochemical study of bone remodeling process following experimental tooth movement: Sahara, N. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.), Toyoki, A., Ashizawa, Y., Deguchi, T. (Dept. of Orthod., Matsumoto Dent. Coll.) and Suzuki, K. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.). Japanese association for dental research (40th annual meeting) December, 1992.

総合歯科医学研究所 生体材料開発部門

論文発表

レーザー照射によるヒト抜去歯の形態および温度変化について：小幡明彦，宮崎顕道，白井竹郎，佐藤陽一，上島真二郎，出口敏雄（松本歯大・歯科矯正），山岸利夫，伊藤充雄（松本歯大・総歯研生体材料），松本歯学，18(1)：30—38，1992。

矯正用材料へのイオン・プレーティングの応用（その1）—アーチワイヤーへの応用—：白井竹郎，小幡明彦，宮崎顕道，大山尚毅，丹波 健，戸刈 惇毅，出口敏雄（松本歯大・歯科矯正），山岸利夫，伊藤充雄（松本歯大・総歯研生体材料），松本歯学，18(3)：271—276，1992。

学会発表

レーザー照射によるヒト抜去歯の変化—ディフォーカス条件での照射について—：小幡明彦，出口敏雄（松本歯大・歯科矯正），山岸利夫，伊藤充雄（松本歯大・総歯研生体材料）。松本歯学会総会（第34回）平成4年6月。

形状記憶型シリコン樹脂に関する研究（その2）—浸漬実験について—：宮崎顕道（松本歯大・歯科矯正），山岸利夫，伊藤充雄（松本歯大・総歯研生体材料）。日本歯科理工学会（第20回）平成4年9月。

ファイバー導光によるCO₂レーザーのヒト抜去歯への照射について：小幡明彦，出口敏雄（松本歯大・歯科矯正），山岸利夫，伊藤充雄（松本歯大・総歯研生体材料）。松本歯学会総会（第35回）平成4年11月。

除去したITIスクリーインプラント（TPS）の電顕的観察：坂本義樹，佐藤文夫，坂本貴司，吉澤英樹，鈴木和夫（松本歯大・口腔解剖II），伊藤充雄（松本歯大・総歯研生体材料）。日本口腔インプラント学会（第21回）平成4年7月。

電子顕微鏡室**論文発表**

露出セメント質の形態学的研究，第一報（歯周疾患患者の露出セメント質表層における過石灰化帯と臨床所見について）：岩本雅章，野中慎之，荒川義浩，太田紀雄（松本歯大・歯科保存I），赤羽章司（松本歯大・電顕室），鈴木和夫（松本歯大・口腔解剖II）。日歯周誌，34(4)：871—882，1992。

歯牙フッ素症1症例の病理学的検索：枝重夫，安東基善，長谷川博雅，川上敏行（松本歯大・口腔病理），近藤武，笠原香，中根卓，樋口壽

英（松本歯大・口腔衛生），赤羽章司（松本歯大・電顕室）。松本歯学，18(2)：109—116，1992。

学会発表

斑状歯1症例のMicroradiographyとElectron Microscopy：川上敏行，安東基善，長谷川博雅，枝重夫（松本歯大・口腔病理），近藤武，笠原香，中根卓，樋口壽英（松本歯大・口腔衛生），赤羽章司（松本歯大・電顕室）。硬組織研究技術学会雑誌，1(1)：13—14，1992。硬組織研究技術学会（第1回）平成4年3月。

露出セメント質の形態学的研究，第一報（露出セメント質表層における過石灰化と臨床所見について）：岩本雅章，野中慎之，太田紀雄（松本歯大・歯科保存I），赤羽章司（松本歯大・電顕室），鈴木和夫（松本歯大・口腔解剖II）。日歯周誌，34(抄)春季特別号：76，1992。春季日本歯周病学会総会（第35回）平成4年5月。

歯牙弗素症の1症例の電子顕微鏡観察：枝重夫（松本歯大・口腔病理），赤羽章司（松本歯大・電顕室），安東基善，長谷川博雅，川上敏行（松本歯大・口腔病理）。歯基礎誌，34(抄)：206，1992。歯科基礎医学会総会（第34回）平成4年10月。

顎下腺唾石の微細構造と機器分析所見について：岩本修，山岸眞弓美，福屋武則，北村豊，千野武廣（松本歯大・口腔外科I），赤羽章司（松本歯大・電顕室）。抄録集：34，1992。日本口腔外科学会中部地方会（第35回）平成4年10月。

顎下腺唾石の微細構造と機器分析所見について：岩本修，山岸眞弓美，福屋武則，北村豊，千野武廣（松本歯大・口腔外科I），赤羽章司（松本歯大・電顕室）。松本歯学，18(3)：334，1992。松本歯学会例会（第35回）平成4年11月。